

33 ポンカン原木

指定 昭和 45 年 11 月 16 日 町指定天然記念物(植物)

所在地 平内

ポンカンは、明治 29 年、当時の台湾総督樺山大将が郷里鹿児島に苗木を送ったのが、わが国における植栽のはじまりといわれ、その後も数度、各地で導入試作されたが、いずれも成功しなかった。

ポンカン原木は、大正 13 年、黒葛原兼成氏が、屋久島の農業振興のために台湾より苗木を取り寄せ植栽したものである。

氏は、人々の冷笑の中、ポンカンの栽培に精魂を傾け、県農事試験場委託試験地として岡田技師の協力を得、粉骨砕身、10 年の歳月を経て、わが国ではじめてのポンカン栽培に成功し、屋久島ポンカンの名をなすにいたった。

氏は、当時の元老西園寺公望に贈呈したが、「甘酸共に宜しきを得て、台湾産のものよりもよい逸品」との賞賛を受けた。今日のポンカン日本一としての屋久島の名声は、氏の不断の奨励努力の賜である。

現在、ポンカン原木は、孫の平氏によって管理されているが、今でも 200 基^キ余りの実をつける。

→黒葛原兼成

明治元年、鹿児島市池之上町で生まれる。本名黒葛原藤太郎。

文部省から奨学金を受けて明治 19 年師範学校を卒業。校長を歴任した後、明治 23 年 4 月、栗生小学校長として赴任、下屋久村内 9 ヶ所の簡易小学校長をも兼任した。明治 28 年 4 月、岳南高等小学校を栗生に創設するに当り、多大なる努力を払った。

明治 28 年、高尾野小学校へ転任。翌年、伊敷小学校長に就任。日清戦争後の明治 29 年 9 月、台湾総督府国語学校伝習生(助教)として台湾に招かれた。氏は台湾にわたるに当たり藤太郎の名を兼成と改名した。

明治 38 年 4 月、下屋久村に永住するために台湾を引き揚げ、平内地区内に百町歩余の原野の払い下げを受けて開墾事業に着手した。屋久島と台湾の気候がよく似ていることから、大正 13 年に台湾からポンカン苗木を移入、このほか、和牛飼育の奨励、委託林経営について画策した。中でもポンカン栽培の技術達成のために力を入れ、鹿児島県柑橘試験場垂水分場の応援を求めながら、自らも栽培研究をし、多く

の人に奨励して屋久島ポンカンの名声を高めた。現在、ポンカンは県下のみならず他県においても栽培されているが、特に屋久島ポンカンの銘柄は、その味・香り姿とも全国いたるところで高く評価され、賞賛されるに至っている。これはひとえに、氏の十余年にわたる不撓不屈の精神によって産み出されたものである。

この間、村会議員 4 期、県会議員 3 期を歴任し、昭和 11 年 6 月には、下屋久村長に就任した。昭和 15 年、県知事より産業功労者として表彰を受けた。

氏の人生は、教育・産業・政治など、万般にわたるもので、昭和 26 年 12 月 6 日、83 歳で永眠するまで活躍した。氏の偉業を讃えて、昭和 28 年 12 月、平内字平山旧県道沿いに頌徳碑が建てられた。名誉町民第 4 号。